

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	リハビリ発達支援ルームUTキッズ三田		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 15日 ~ 2025年 12月 27日		
○保護者評価有効回答数 (対象者数)	46	(回答者数)	10
○従業者評価実施期間	2025年 12月 15日 ~ 2025年 12月 27日		
○従業者評価有効回答数 (対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 23日		

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	スペースの広さ	こども達が、十分に必要な感覚を得ることができるようスペースを確保しています。	スペースは生かしつつ、家庭でも取り組めるよう小さなスペースでできる活動も積極的に支援に取り入れていきます
2	面談・FB	こどもに直接支援を提供する「直接支援」以外にも、こどもの背景理解や、支援方法、また日々の困り感に対する助言等保護者への「間接支援」も重要と捉えています。5分程度の短い時間ですが必ず時間を取るようにしています。	「伝える」ではなく「伝わる」ことを重視し、わかりやすい説明を心がけます。またそれが叶うように、研修の充実を図ります。
3	安心・安全の提供	不安の強さが、困り感の出現に影響を与えていることがあります。生活年齢ではなく、発達年齢に。課題に合わせるのではなく、自己表現を受け入れてくれる。そのような安心を提供できる貴重な場として改めて認識し、引き続き提供していきます。	安心・安全が重要であることを職員間で共通理解としています。またそれを求め、保護的に関わるのみを良しせず、安心をもってジャストライトチャレンジができるよう支援を提供できるようにしていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	担当の未定期間	職員の休職、退職があり、担当を割り当てれない期間がありました。ご不安を与えてしまい大変申し訳ございませんでした。	休職フローに担当変更の項目も含めて作成し、ご不安を与えない運営ができるようにします。 担当以外のスタッフが対応する際は、個別支援計画書の内容に合わせた支援を提供しています。ご安心ください。支援にご不安があった際は、ぜひ管理者までお声掛けください。
2	職員の配置	新事業所の開設に伴う、キャリアの高い職員の分散、新人の増加により、職員に余裕のある教育が提供できていませんでした。また一定の基準教育では、職員により習得度に差があり、一方の職員の負担感が増す状態となっていました。	さらなる人材の確保、また業務量の調整で、必要に応じて余裕を取れる組織構造にします。 また特定の職員に負担が集中したり、誰かが一方的に支える構造になることは、組織として認めません。 業務量・責任の偏りが生じないよう、配置と評価の両面で管理します。 一方「全員が同じ仕事を同じ水準でできること」を求めるのではなく、それぞれの強みを活かし、役割分担によってチームとして成果を出すという文化を形成していきます。
3	衛生管理	エアコンの内部洗浄を行なっていないため、カビが発生していました。	2年に一回、内部洗浄を業者に依頼します。また環境整備の時間に、内部洗浄の期間管理を行います。

## 公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	リハビリ発達支援ルームUTキッズ三田	公表日	2026年 2月 1日
		利用児童数	2026年 1月 6日 回収数 10名 / 46名中

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	9	1	0	0	設備道具が充実していて子供がいろいろなものに興味を示して楽しく遊べています 1人で活動する時はのびのびできるが2人となると配慮が必要になる。	2名以上の活動の場合も、十分なスペースが確保されています。ただ、スペースを2分して使用はしていないため、広くスペースを使う活動、中央を使う活動などで、スペースが重なることがあります。その際は指導員同士でコミュニケーションを取り、活動の順番や、スペースの移動等、互いの子どもが必要な支援を受けられるよう、配慮しながら提供していきます。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	10	0	0	0		
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	10	0	0	0		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	10	0	0	0		
適切な支援の提供	5	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	9	1	0	0	担当制がやっとスタートしたが、それまでいろんな先生にあたって支援の仕方がバラバラだったので段階を踏んだ支援が受けられれば良いと思う。	休職のフローが整備されておらず、担当未定の期間がありました。ご不安にせ申しきございません。担当でない場合も、個別支援計画に則り支援を提供しています。また担当の場合は、深く担当を知った支援を。担当外の場合は、広く子どもを知る支援を提供し、子どもの理解を深め、より良い支援を提供するきっかけとしています。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	9	0	0	1		HP・掲示板にて公表しています。ご確認ください。
	7	子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画や放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	9	0	0	1	まだ半年経ったところなので懇談が実施されていない。	児童発達支援管理責任者を中心に、ニーズや課題を感覚統合理論を中心に分析し、個別支援計画を作成しています。
	8	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）には、児童発達支援（放課後等デイサービス）ガイドラインの「児童発達支援（放課後等デイサービス）の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	9	0	0	1		個別支援計画は「本人支援」「家族支援」「移行支援」の項目を含め作成しています。また具体的かつわかりやすいよう、表現の向上に努めています。
	9	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）に沿った支援が行われていると思いますか。	9	1	0	0		個別支援計画に沿った支援と実感していただけるよう、日々の支援の中でも支援計画を保護者と確認する機会を作ります。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	10	0	0	0		
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等、または放課後児童クラブや児童館等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	5	1	3	1		日々の支援に、直接の交流の機会は設けていません。自然体験療育」等外出イベントの際に地域の方と交流する機会があります。
保護者への	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	10	0	0	0		
	13	「児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	9	0	1	0		支援を開始する際、また半年に1度は個別支援計画を作成、内容を説明した上で実施しています。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	6	0	1	3	勉強会があれば参加してみたい。	三田市基幹相談支援センターと協働し、ペアレントトレーニング「かんがるー教室」を年2回実施しています。ぜひご参加ください。
	15	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	10	0	0	0	定期的に面談の時間をとっていただき落ち着いて話すことができるので非常にありがたいです。	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	9	1	0	0		半年以外にも、必要に応じて、面談を行うことが可能です。お気軽にご相談ください。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	10	0	0	0		

説明等	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	5	0	2	3		父母の会の活動は、お求めに応じて協力させていただいている。またイベントはきょうだいの参加が可能なものもあります。
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	10	0	0	0		
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	10	0	0	0	毎回フィードバックがあるのでわかりやすい。	
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	7	0	1	2	配信されているのにも関わらずきちんとお知らせを確認できておらずすみません。	インスタグラムを通じて活動内容を共有しています。また通知アプリを使用し、必要な情報を適時発信しています。
	22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	10	0	0	0		
非常時等の対応	23 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	5	0	1	4		各マニュアルは策定済みです。また研修、訓練、訓練報告も行なっていますが、周知が不足している結果となつたため、周知方法の再検討を行います。
	24 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	4	0	0	6		
	25 事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	9	1	0	0		週1回ミーティングにて、安全確保のための業務改善を検討する時間を設けています。
	26 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	8	0	2	0		怪我があった際は、速やかに保護者に連絡し状況と共に確認します。また医療費が発生した場合の返還も実施しています。「いいえ」の回答が2名いらっしゃるため、現状の対応における不安や、十分な対応が不足していた可能性があります。再度、怪我の際のフローを周知、徹底を行うとともに、カバーできていない不安の抽出に努めます。
満足度	27 こどもは安心感をもって通所していますか。	10	0	0	0	もっと行きたいと言う程毎回の通所が楽しみで大切な存在です	ありがとうございます。これからも、安心感を大事にご支援を提供していきます。
	28 こどもは通所を楽しみにしていますか。	10	0	0	0		
	29 事業所の支援に満足していますか。	9	1	0	0	お忙しいことや小さなお子さんもいてその他色々な決まりごとの中で少数派のことなので難しいことは重々承知なのですが、不登校の子どもに関しては放課後ディイを午前中も活用できたらいいなあとと思いました。午前中学校に行けない人の為にフリースクールがあることも理解し体験や話しを聞きにいくのですが、あすなろ学校では低学年はあまりおらず学習補助がメインなのでおすすめしないと言われたり、補助がでたとしてもフリースクールに毎日通うことは金銭的に厳しくなかなか子どもに合ったフリースクールに出会うことも難しいです。そんな中で子どもが安心して通うことができる場所がこのUTキッズでしたのでつい欲を言ってしまいすみません。これからバッティワン等子どもがたくさんいる場所にUTさんがコネクトができたように来てくれたから救われる子どもたちも増えるのではないかなと思い期待しております。	ご提案ありがとうございます。現在兵庫県の法解釈上、児童発達支援と放課後等デイサービスの時間を分ける必要があるため、午前中の利用をしていただくことができません。ご期待に添えず申し訳ございません。発達に困りかんを抱えた不登校児の支援の必要性は年々高まっています。今後も我々でできることを継続して検討し、こどもや保護者様に対し、成長への安心、実感、期待を感じれるよう取り組んでいきたいと思います。

事業所名 リハビリ発達支援ルームUTキッズ三田

公表日 2026年 2月 1日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	0	SI療法を行うにあたり、十分な広さを確保しています。	2名以上の活動の場合も、十分なスペースが確保されています。ただ、スペースを2分して使用はしていないため、広くスペースを使う活動、中央を使う活動などで、スペースが重なることがあります。その際は指導員同士でコミュニケーションをとり、活動の順番や、スペースの移動等、互いの子どもが必要な支援が受けられるよう、配慮しながら提供していきます。
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	0	基準に応じた人員のほか、さらに加配が可能な人員を配置しています。	職員の人数は足りているが、支援に入らない職員がいるため配置に偏りがあります。人員増を進め、必要に応じて余裕の取れる組織構造にしていきます。業務量や責任の偏りが生じないよう、配置と評価の両面で管理します。
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	0	各空間は役割に応じて扉で区切られ、物品も異なるため、わかりやすく構造化されています。また障害特性を子どもの課題だけでなく、環境の課題と捉え、遊戯室を通らない動線が確保する等、行動の課題を、本人の問題だけにせず、環境の課題もあることを提示しています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	0	毎日掃除消毒、空気清浄機を稼働させており、清潔な環境となっている。また、感覚の偏りのある児童に対し、豊富な感覚が提供できる環境となっている	エアコン・空気清浄機のフィルターの清掃は日ごろからしているが、エアコンの内部は清掃していないため空気の衛生面は疑問が残ります。内部清掃を定期定期に業者に依頼するようにします。
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	0	情緒不安定な子どもに対し、スヌーズレン室を提供しています。 子どもの状況によって、スヌーズレンで気持ちを落ち着かせてから療育を行うこともあります。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	0	毎週ミーティングの時間があり、職員同士の意見交換を時間が設けています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	年1回実施し、業務改善に繋げています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	6と同じ	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	1	第三者による外部評価は行なっていません。	保護者様や子ども、関係機関からのご意見を真摯に受け止め、業務改善に繋げていきます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内などで研修を開催する機会が確保されているか。	5	0	様々な研修が用意されており、参加しやすい環境があります。 法人内では、新人研修、フォローアップ研修、専門研修、管理者研修、その他学習、保育所等訪問会議内において各課題となる内容に対し研修を実施しています。	
児童発達支援計画	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0	2024年12月25日よりHP・掲示板にて公表しています。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画(放課後等デイサービス計画)を作成しているか。	5	0	日々の活動の様子に加え、発達記録やモニタリングを通して、適切にアセスメントし、ニーズを引き出した上で計画書を作成しています。	
	13	児童発達支援計画(放課後等デイサービス計画)を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0	作成する際は、児発管と担当者で担当者会議を行い、支援を共通理解すべく検討を行なっています。	

適切な支援の提供	14	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0	すぐに計画書が閲覧出来る環境で、職員間に共有されています。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	0	JSI-Rにてフォーマルなアセスメントを行い、日々の支援の中での観察や保護者からの情報といったインフォーマルなアセスメントを使用して確認しています。	
	16	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）には、児童発達支援（放課後等デイサービス）ガイドラインの「児童発達支援（放課後等デイサービス）の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0	全ての項目を適切に設定し、具体的な支援内容を示しています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0	他の指導員と相談しながら、担当が活動プログラムを中心に考えています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0	最良な支援を提供するという観点のもとプログラムを選択しているため、固定化する、しないは問わないようにしています。	
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成し、支援が行われているか。	5	0	個別活動を中心にながら、子どもの状況に応じて、集団活動を適時組み合わせた計画書を作成し、支援しています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0	並行児との関わりにおいて課題がある児童に関しては、並行児の担当スタッフと事前に協議の上、支援を行なっている	1人で支援を行っているので話し合いをすることがないです。他の職員と支援の時間が互い違いになることも多く、話をする時間の確保が難しくなっています。フォーマルなケース会議実施の検討をします。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	0	上記、または並行児に入っていた担当同士で聞きづくことがあれば、互いに共有するようにしている	サブで職員に入っている時にはFBを行っています。主で支援している職員と、サブで入る職員では見えるものが違います。支援毎に互いの評価を共有するようにします。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0	日々記録は原則当日に入力するようにしています。考察を記載する項目があり、その入力を通じて次回が最良の支援になるよう改善の機会を作っています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0	6ヶ月に一度モニタリングを行い、計画書の見直しを行なっています。また、必要に応じて、家庭連携加算のサービスを利用し、保護者、利用児の状況把握に努めています。	
	24	【放ディのみ】放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	5	0	身の心事が自立してコントロールできるよう感覚調整機能の向上を主とした活動を提供しています。 創作活動：遊具の組み合わせや遊びのルール作りなど、創造的な発想を生かすこと、またトライアンドエラーを通じてさらなる創造を行う機会を提供しています。 地域交流の機会の提供：定期的に地域の野外活動が行える場所にて支援、地域資源を知る、また利用するといった、地域とのつながりの機会を提供しています。 余暇の提供：遊びを通じて新たな興味の発見の機会を提供しています。	
	25	【放ディのみ】子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	0	24.創作活動を通じて実施しています。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0	サービス担当者会議が開かれた際は、担当者が参画しています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	0	必要度に合わせ、市各課、また、園・学校と連携する機会を増やしています。	
	28	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	0	センター主催の研修参加を通じてスーパーバイズを受ける機会を設けています。	

関係機関や保護者との連携	29	保育所や認定こども園、幼稚園等、または放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	1	設けていません。 通所支援事業の中でも、役割分担があると捉え、当事業所は利用児・保護者への支援にリソースを割いています。	山登りイベントなど、地域の資源を使った支援では、地域の方との交流があります。そのような機会を大事にしていきます。
	30	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0	FBの際に支援の取り組み内容を伝えたり、保護者から家庭での困り感等を聞いて共有しています。 利用毎にFBの時間があり、こどもの発達の状況や課題の共通理解を更新しています。	個別支援計画に沿った支援と実感していただけるよう、日々の支援の中でも支援計画を保護者と確認する機会を作ります。
	31	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレンツ・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	0	年2回実施しています。	
	32	<u>【児発事業所・児発センターのみ】</u> 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	0	園へのスムーズな移行を目指し、所属園と事業所間で児童の様子を確認に行くなど、質の高い情報共有・相互理解を図っています。	
	33	<u>【児発事業所・児発センターのみ】</u> 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	0	必要に応じてサポートファイルを作成し、支援内容等の情報共有と相互理解を図っています。	
	34	<u>【児発センターのみ】</u> 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	5	0		
	35	<u>【児発センターのみ】</u> 質の向上を図るために、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	5	0		
	36	<u>【児発センターのみ】</u> (自立支援)協議会・こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	5	0		
	37	<u>【放ディのみ】</u> 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	0	学校からはHPを通じて年間予定を共有しています。送迎を行なっていないため、特に連絡調整は行なっていません。	
	38	<u>【放ディのみ】</u> 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	0	就学前相談前に、園と利用児の状態を共通理解する機会を設けています。	
保護者への説明	39	<u>【放ディのみ】</u> 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	0	現状対象者がいないため行なっていません。	
	40	<u>【放ディのみ】</u> (自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	5	0	三田市においてはこども部門を司る自立支援協議会が設置されていません。通所支援事業所連絡会が有志で行われており、ここで上がる課題を自立支援協議会に設置されている相談支援連絡会に共有するようにしています。	
	41	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0	契約時に、利用契約書、重要事項説明書を通じて行なっている。また質問があった際は、隨時丁寧に説明を行なっています。	
	42	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0	モニタリング時、主に保護者から、こどもや保護者の意向を確認する機会を設けています。	
	43	「児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5	0	作成された計画書を用いて、支援内容の説明を行い同意を得ています。	
	44	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0	支援毎にフィードバックを行い、相談の機会を作っている。また必要に応じて、事業所内相談を行なっています。	
保護者への説明	45	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	0	保護者会の要請に応じ、勉強会や、福祉用具展示のイベント実施することができます。また支援イベントでは、きょうだいの参加が可能なものもあります。	
	46	こどもや保護者からの相談や苦情、申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や苦情、申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0	重要事項説明書にて、苦情窓口を周知している。また他のスタッフが把握した際も迅速に担当である管理者が対応するようにしています。	

等	47	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5	0	インスタグラムを通じて活動内容を共有している。また通知アプリを使用し、必要な情報を適時発信しています。	
	48	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0	鍵付きの棚に保管しています。 また重要事項説明書に記載、同意、また別途個人情報使用同意書にて同意を得ることで留意している。	
	49	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0	説明の際は原則紙面にて行なっています。また、利用児に対しては発達段階や障害の程度に合わせた伝達を行なっています。	
	50	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	0	社会福祉協議会を通じて、地域住民に対して研修会を周知しています。研修会の内容に事業所の運営内容を含めることで、開かれた運営となるよう進めています。	
	51	<u>【放ディのみ】</u> 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0	44の通り	
非常時等の対応	52	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	0	各マニュアルは策定済み。研修、訓練を通じて職員に周知し、訓練報告を通じて家族に周知を図っています。	怪我があった際は、フローに従い、速やかに保護者に連絡し状況を共に確認します。また医療費が発生した場合の返還も実施しています。 「いいえ」の回答が2名おられたため、現状の対応における不安や、十分な対応が不足していた可能性があります。再度、怪我の際のフローを周知、徹底を行うとともに、カバーできていない不安の抽出に努めます。
	53	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	0	BCPは策定済みです。訓練は本年度内に行う予定としています。	
	54	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5	0	利用登録書にご記載いただくことで確認しています。	
	55	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	0	54と同じ	
	56	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0	安全計画は策定済みです。	
	57	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	0	安全計画に基づき、特に災害時の子どもの引き渡しがスムーズに行えるよう取り組んでいます。訓練報告を通じて家族へ周知しています。	
	58	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0	その都度、職員で共有と注意・環境の改善を行っています。 またミーティング毎に確認しています。	
	59	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0	研修の機会を確保し、適切な対応が行えるよう努めています。	
	60	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	0	身体拘束を行う必要がある場合、計画書に記載した上で、子どもや保護者に十分に説明、了解を得るフローとしています。	